

再び新興国株式市場に注目が集まる可能性

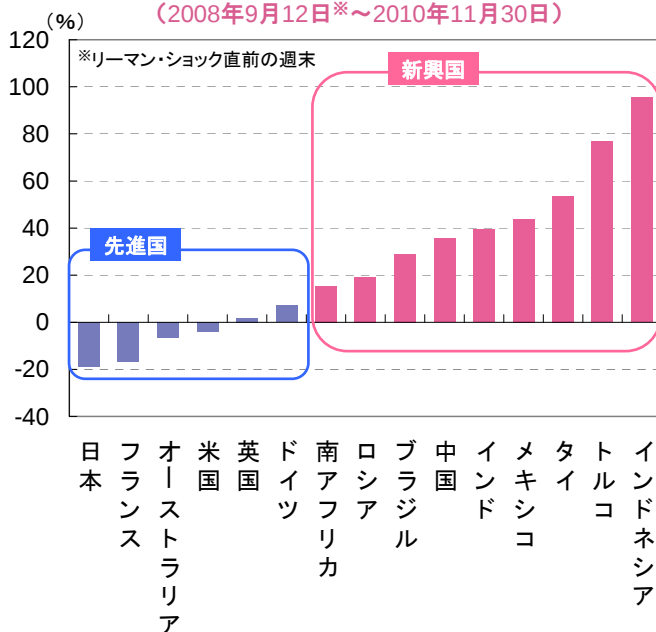
足元の金融市場では、これまで順調に上昇してきた新興国の株式市場が伸び悩む一方で、先進国の株式市場の堅調さが目立つようになりました。

新興国の一部でインフレ懸念の台頭から金融引き締めに対する警戒感が強まっていることを受け、海外の投資家などがこれまで積極的に購入していた新興国の株式の利益を確定し、米国など相対的に出遅れていた主要先進国の株式を買う動きがでていることなどが背景にあると考えられます。また、左下図にみられるように、リーマン・ショック以降、新興国の株式は大きく値を戻す動きとなっていたため、その反動が出ている面もあるとみられます。

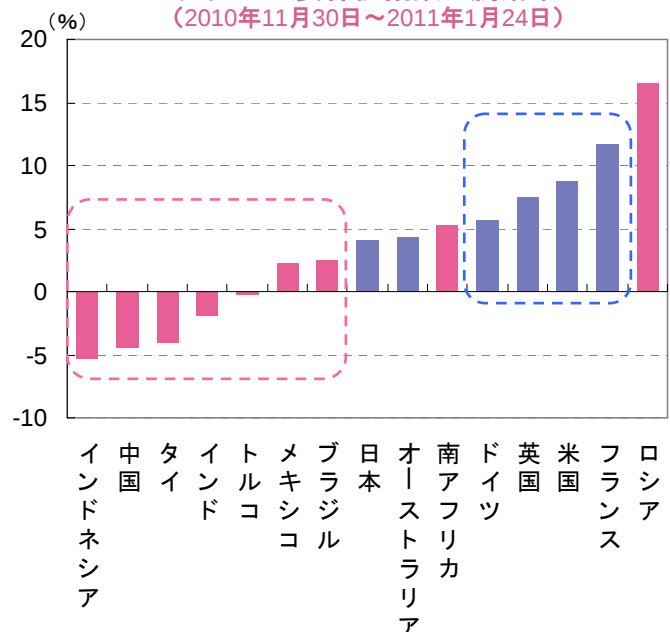
新興国の株式市場は、金融引き締めなどによって経済成長が抑制されないことが確認されるまで、しばらくは足踏み状態が続く可能性もあります。ただし、日米欧の金融緩和などによって膨らんだ投資マネーが、先行していた株式市場(新興国)から出遅れていた株式市場(先進国)へと循環していることを考えると、旺盛な投資意欲を背景に、より有利な資産を求める動きが継続していると考えられます。

25日に発表された最新のIMF見通しによると、2011年および2012年ともに新興国の経済成長率は先進国を大幅に上回る見通しで、景気回復の二極化傾向は一段と鮮明になる見込みです。力強い経済成長を背景に、企業業績や内需の拡大などが引き続き新興国の株式市場を押し上げる要因になると考えられます。そのため、出遅れていた株式市場の上昇が一巡した後は、ファンダメンタルズ(経済の基礎的要因)に沿うように、投資マネーが再び新興国の株式市場に流入すると期待されます。

リーマン・ショック以降の主要株価指数の騰落率
(2008年9月12日※～2010年11月30日)



足元の主要株価指数の騰落率
(2010年11月30日～2011年1月24日)



■上記グラフで使用した株価指数は、各国の主要株価指数(現地通貨ベース)。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。



■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。